

## 国府台病院 「統合内科」 後期研修（レジデント）プログラム



### プログラムの目的と特徴

国府台病院は、2008年4月国立精神・神経センターから国立国際医療センターとして組織再編され、さらに2010年4月に独立行政法人国立国際医療研究センターとなり、さらに2015年4月から国立研究開発法人となりました。ナショナルセンター（国立高度専門医療センター）で唯一、初期研修医からレジデント（後期研修医）までを含めた卒後教育を行う国立国際医療研究センターはセンター病院（東京都新宿区）と国府台病院（千葉県市川市）に分かれており、研修医・レジデントもそれぞれの病院で募集しています。以前診療の中心であった精神疾患の診療は今も当院の特色ですが、一般診療科も診療体制が年々拡充しており、精神疾患に強い総合病院として特徴のある診療・研究などを行っています。

国府台病院の内科系診療科は、診療体制や病棟の面で、統合内科、消化器・肝臓内科、心療内科の3つに分かれます。心身症や摂食障害に関しては心療内科、消化器疾患に関しては消化器・肝臓内科が診療し、私たちの統合内科ではそれ以外の内科診療を担っています。統合内科では循環器、呼吸器、糖尿病、リウマチ膠原病、感染症などの各領域の専門医が連携して一つの内科として診療にあたることで、複数かつ幅広い疾患をもった患者さんにも対応しています。

「統合内科」の後期研修は、希望に合わせて臓器別の専門性を追求しつつ、患者さんを内科の視点で総合的に診療できる医師の育成を目標としています。

- 1) 内科サブスペシャリティについての専門性も身に着けながら内科全般を勉強し、総合内科専門医の取得を考えている方。
- 2) 内科全般を経験しながら特に糖尿病、リウマチ膠原病、老年病、感染症の研修を受けて、専門医を取得したいと考えている方
- 3) 将来的には内科以外の専攻（精神科など）を考えているがその前に内科診療を学びたい方、また現在精神科などを専門に診療しているが、一度内科を勉強したいと考えている方
- 4) 内科の臨床に加えて、臨床研究や治験にも携わり、学会発表や論文執筆なども経験したい方などに適した卒後研修環境を提供したいと考えております。

新専門医制度に該当する専攻医の研修に関しては、ホームページの「平成31年度新専門医制度の専攻医募集」も当院内科のレジデント研修について紹介していますので、ぜひご覧ください。

[http://www.ncgmkohndai.go.jp/boshu/065/h31\\_new-resident.html](http://www.ncgmkohndai.go.jp/boshu/065/h31_new-resident.html)

見学は随時受付いたします。当院での研修に関心を持たれた方はお気軽にご相談ください。

## 統合内科の診療

統合内科では年間 1000 から 1200 名程度の入院患者を診療しました。入院患者数は概ね 50～80 名前後で、レジデントの年間経験症例数は 150 から 200 名程度でした。当院が精神・神経専門病院から内科を含めた総合病院に変化したとの認識が周辺地域において徐々に拡がりつつあり、また病棟の新設やスタッフの増員に伴い、入院・外来患者数は増加傾向です。病棟や救急外来での診療は医長や医師などの上級医が一緒に行い、また症例や状況に応じて研修医がつきます。腎臓と血液の常勤の専門医はおりませんが、腎臓内科は月 2 回、血液内科は月 2 回、センター病院から専門医が診療支援に来ていますので、症例や状況に応じて、そのサポートを受けられますし、白血病や悪性リンパ腫の治療や腎不全の維持透析などを除けば当院で入院診療にあたることもしばしばあります。

精神科からの身体合併症の診療を依頼されるケースもあり、統合失調症やうつ病などの精神科疾患を持つ患者を診療する機会は頻繁にあります。また肺炎等で内科に入院している患者さんがせん妄などの精神症状をきたすことはよくありますが、精神科医が内科病棟でもリエゾンとして出入りしており、気軽に相談できます。精神疾患として当初診療されていた患者さんの中にも、内科での精査により全身性エリテマトーデスやクッシング症候群、橋本病、自己免疫性下垂体炎などが判明したケースもあり、当院の診療体制を特徴づけるような症例も経験できます。本邦で精神疾患は増加しており、また厚労省も従来の 3 大疾病に糖尿病と精神疾患を加えて 5 大疾病として重視しており、内科医として精神疾患の経験を積むことは今後一層意義のあるものになっていくと思います。

外来診療に関しては、レジデント 1 年目から週 1 回の総合内科外来で初診及び再診患者の外来診療を担当し、2 年目以降は本人の希望などを踏まえて、リウマチ科や糖尿病内分泌科などの専門外来も担当することもできます。外来の初診患者は、入院患者や救急患者とはまた違った患者さんをみることで、自分が入院で受け持った患者さんや生活習慣病などの慢性疾患の患者さんを長期にフォローしていくことは、非常にやりがいがあります。

また Nutrition Support Team (NST)、Infection Control Team (ICT)、Immediate Cardiac Life Support (ICLS) の活動に参加して、多職種と交流しながら幅広い視点・スキルを身につけることもできます。

## 3 年間の研修と到達目標

レジデントプログラムは、内科志望の場合、原則 3 年を予定しております。

現在の内科認定医制度においては初期研修の 2 年間で統合内科でのレジデント研修 1 年間で日本内科学会認定医に必要な全分野の症例を経験することができますので、毎年 1-4 人程度がレジデント 2 年目で内科認定医を受験し、全員合格しています。

専門医の取得に関しては現時点では、日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会専門医、日本糖尿病学会認定糖尿病専門医、日本老年医学会認定老年病専門医、日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医、日本感染症学会認定感染症専門医、日本アレルギー学会専門医の取得が可能となっています。また、日本呼吸器学会の教育関連施設、日本循環器学会の専門医研修関連施設となっています。当院のレジデントは糖尿病学会に所属して糖尿病専門医になることを目指すものが多く、毎年 1-3 人程度が合格しています。また、当科の診療範囲からは総合内科専門医や老年病専門医の取得も困難ではなく、実際に多くのスタッフが総合内科専門医を取得しています。リウマチ専門医、感染症専門医については、それぞれの専門指向に基づいた当科内での研修を通じて取得していますが、統合内科においては同時期に併行して多様な分野の診療を継続するため、リウマチと感染症、糖尿病など、複数の専門分野を同時期に研修することも可能としており、実際に糖尿病とリウマチのようにサブスペシャリティの専門医をダブルでとっている医師もいます。

### 後期 1 年目

指導医のもと入院・外来診療を行います。肺炎、尿路感染症、糖尿病、関節リウマチ、心不全などの様々な患者さんの診断・治療を学んでいきます。腰椎穿刺、中心静脈カテーテル留置、皮膚生検などの手技も身につけていきます。現在、循環器科、呼吸器科をそれぞれ 3 か月間ずつローテーションし、残りの半年間は総合内科・糖尿病内分泌代謝科・リウマチ科などを横断的に研修しています。

### 後期 2 年目

専門外来での診療や超音波検査（腹部、甲状腺、頸動脈、関節など）が行なえます。上級医から引き続き指導を受けながら、あわせて研修医の指導も行っていきます。希望者は、過去には当院の消化器内科、放射線科、精神科などを3か月程度ローテーションしたこともあります。

糖尿病学会、リウマチ学会、感染症学会などの内科系学会の総会や地方会での発表と日本内科学会認定医取得を支援します。指導医より臨床研究および学会発表、英文・和文論文執筆の指導を受けます。

### 後期3年目

研修医だけでなく、レジデントの教育にも関与するようになり、また科全体のマネジメントにも積極的にかかわっていただきます。教育・診療・研究などに貢献する意志が強ければ当科スタッフへの道も開かれており、レジデント→フェロー→スタッフと進んでいきます。

### レジデントの週間予定（一例）

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
月	朝	総合内科外来診療				病棟業務			糖尿病カンファレンス				
火	ミ	病棟業務							リウマチカンファレンス	抄読会			
水	テ	病棟業務	超音波	救急当番					症例カンファレンス				
木	イン	専門外来診療		病棟業務			入院症例カンファ						
金	グ	病棟業務			外勤								

### 統合内科で研修医・レジデントが筆頭で発表した主な学会・論文実績（2016年度以降）

統合内科では、研修医、レジデントが経験した症例を積極的に学会発表できるように指導医が支援しております。また院内では臨床研究に関する講習会の実施や、臨床研究支援室・相談室などの教育・支援体制もあります。研修医やレジデントのうち症例報告のみ、ということは全くなく、研修医のうちから臨床研究に取り組むことも多く、糖尿病学会等の国内学会総会や国際学会で発表してもらっています。学会発表以外にも各種研究会を含め、レジデントには多くの発表の機会があります。また論文執筆の機会を設けており、臨床研究の英語論文を first author で執筆してもらうことを目標にしています。発表分野が多岐に及んでいるのが特徴です。下記の研究業績を示します。

#### <原著論文>

- 1) Nanasawa H, Sako A, Mitsutsuka T, Nonogaki K, Kondo T, Mishima S, Uju Y, Ito T, Enomoto T, Hayakawa T, Yanai H. Development of diabetes mellitus associated with quetiapine: A case series. *Medicine (Baltimore)*. 2017;96:e5900.
- 2) 三塚智彦, 酒匂赤人, 七澤英毅, 野々垣香織, 近藤忠之, 鶴重順康, 伊藤寿彦, 榎本哲郎, 早川達郎, 三島修一, 柳内秀勝: Olanzapin 治療に関連した糖尿病症例の特徴と経過. *臨床精神薬理* 2017;20:69-78.

#### <国際学会での発表>

- 1) Yoko Waragai, Akahito Sako, Tadayuki Kondo, Yu Takeuchi, Hidekatsu Yanai. The risk factors for asymptomatic pyuria among the patients with type 2 diabetes. The 11th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress and the 8th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes. Oct 27-30, 2016. Taipei.
- 2) Yurika Ikegami, Akahito Sako, Hiroki Adachi, Tomoyuki Yada, Hitohiko Koizuka, Naomi Uemura, Hidekatsu Yanai. The influence of diabetes on eradication rate of Helicobacter pylori. The 11th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress and the 8th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes. Oct 27-30, 2016. Taipei.
- 3) Yu Takeuchi, Akahito Sako, Tadayuki Kondo, Hisayuki Katsuyama, Hidetaka Hamasaki, Yoriyasu Uju, Toshihiko Ito, Tetsuro Enomoto, Tatsuro Hayakawa, Hidekatsu Yanai. The Effect of Mental Disorders on Glycemic Control of Patients with Type 2 Diabetes. The 11th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress and the 8th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes. Oct 27-30, 2016. Taipei.
- 4) Eriko Makino, Tetsuro Enomoto, Takahide Hashimoto, Hidetaka Hamasaki, Akahito Sako, Hidekatsu Yanai, Hideki Nanasawa, Tatsuro Hayakawa. Characteristics of Severe Hyponatremia in Patients with Psychiatric Illness: A Retrospective Study. 17th World Congress of Psychiatry. Oct 8-12, 2017. Berlin.

<国内学会・研究会での発表>

- 1) 川口明子, 酒匂赤人, 張替忠直, 増井良則, 近藤忠之, 柳内秀勝. 当院の尿路感染症患者における菌血症の危険因子とその転帰. 第113回日本内科学会総会・講演会. 2016年4月15~17日. 東京.
- 2) 川島悠, 濱崎秀崇, 森山純江, 足立洋希, 勝山修行, 三島修一, 柳内秀勝. 2型糖尿病患者における血中亜鉛・銅濃度と動脈硬化および体組成との関連. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 2016年5月19~21日. 京都.
- 3) 藁谷陽子, 酒匂赤人, 近藤忠之, 竹内悠, 柳内秀勝. 2型糖尿病患者における無症候性糖尿のリスクファクター. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 2016年5月19~21日. 京都.
- 4) 喜多岡亮太, 酒匂赤人, 鈴木弘仁, 柳内秀勝. 糖尿病の腰椎骨密度低下への影響についての後ろ向き研究. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 2016年5月19~21日. 京都.
- 5) 川口明子, 酒匂赤人, 張替忠直, 増井良則, 柳内秀勝. 糖尿病合併尿路感染症患者における起炎菌と薬剤耐性率. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 2016年5月19~21日. 京都.
- 6) 張替忠直, 早川達郎, 酒匂赤人, 増井良則, 川口明子, 櫻井亜樹, 佐藤輝彦, 柳内秀勝. 精神疾患及び向精神薬の有無による肺炎入院患者の臨床的比較. 第112回日本精神神経学会学術総会. 2016年6月2日~4日. 千葉.
- 7) 橋本尚英, 早川達郎, 酒匂赤人, 濱崎秀崇, 榎本哲郎, 柳内秀勝. 重度低ナトリウム血症の臨床的特徴と精神疾患の関与. 第112回日本精神神経学会学術総会. 2016年6月2日~4日. 千葉.
- 8) 張替忠直. 当院の肺炎入院患者における糖尿病合併患者の臨床的特徴. Educational Conference for Medical Research 2016. 2016年9月30日. 佐倉.
- 9) 川口明子. メトホルミンの上手な使い方. Diabetes Forum 2016. 2016年10月31日. 市川.
- 10) 藁谷陽子. 日常の身体活動とBNPの関係. 第6回市川循環器アカデミー. 2017年2月21日. 市川.
- 11) 蛭間重典, 酒匂赤人, 森山純江, 一瀬哲夫, 柳内秀勝. シベンゾリン内服によって低血糖を来した1例. 第630回日本内科学会関東地方会. 2017年2月11日. 東京.
- 12) 杉本佳織, 狩野俊和, 津田尚法. 手指の関節炎と陰部痛を認め診断に苦慮したEwing肉腫の1例. 第625回日本内科学会関東地方会. 2016年7月10日.
- 13) 張替忠直, 津田尚法, 矢崎博久, 柳内秀勝. 頸部膿瘍から急速に進行する骨破壊を伴う下顎骨髄炎を来したと考えられる1例. 第629回日本内科学会関東地方会. 2016年12月10日. 東京.
- 14) 杉本崇行, 張替忠直, 濱崎秀崇, 佐藤輝彦. 人工呼吸管理中に発症したII度気胸に対し、胸腔ドレーンを留置せずAPRVモードの呼吸管理が奏功した1例. 第20回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会. 2016年9月. 東京.

- 15) 城石充, 畑田恵美, 松林沙知, 濱崎秀崇, 佐藤輝彦. 肺化膿症の背景にアレルギー性気管支肺アスペルギルス症を認めた一例. 第 222 回日本呼吸器学会関東地方会. 2016 年 11 月. 東京.
- 16) 黒河内敏成, 藁谷陽子, 箱島真理子, 川口明子, 増井良則, 近藤忠之, 狩野俊和, 佐藤輝彦. 抗 MDA5 抗体陽性急速進行性間質性肺炎に対し, 大量 $\gamma$ -グロブリンおよびリツキシマブが有効であった 1 例. 第 220 回日本呼吸器学会関東地方会. 2016 年 7 月.
- 17) 槇野絵里子, 早川達郎, 橋本尚英, 濱崎秀崇, 柳内秀勝, 七澤英毅, 榎本哲郎, 酒匂赤人. 精神疾患患者における重症低ナトリウム血症の臨床的特徴. 第 113 回日本精神神経学会学術総会. 2017 年 6 月 22 日~24 日. 名古屋.
- 18) 金井重儀, 近藤忠之, 榎本哲郎, 早川達郎, 柳内秀勝, 酒匂赤人. Olanzapine, Aripiprazole 内服患者における糖代謝異常の発症頻度と Risk Factor. 第 30 回日本総合病院精神医学会総会. 2017 年 11 月 17 日~18 日. 富山.
- 19) 白玉 桜, 杉本崇行, 増井良則, 岩崎秀治, 鈴木桂悟, 酒匂赤人, 柳内秀勝. 胃壁内気腫症を来したが保存的加療が奏功した 1 例, 第 639 回日本内科学会関東地方会, 2018 年 2 月 10 日, 東京.
- 20) 畑田恵美, 津田尚法, 増井良則, 矢崎博久: 誤嚥性肺炎における入院経路と重症度, 喀痰培養結果についての臨床的検討. 第 92 回日本感染症学会学術講演会・第 66 回日本化学療法学会総会 2018 年 5 月 31 日~6 月 2 日. 岡山.

## スタッフ一覧

医師名	役職	出身大学 (卒業年次) 及び 主な職歴	資格、所属学会	診療・研究の領域
田中由利子	循環器科診療科長	帝京大学 (昭和 61 年卒) 国立国際医療研究センター循環器科	日本内科学会会員 日本循環器学会会員 日本心血管インターベンション治療学会認定医 日本心エコー図学会会員 日本老年病学会会員 臨床研修指導医	循環器
佐藤 輝彦	呼吸器科診療科長	順天堂大学 (平成 7 年卒) 順天堂大学大学院 (平成 14 年修了) 医学博士 国立国際医療研究センター 順天堂大学医学部呼吸内科 豪州 Ludwig Institute for Cancer Research, Postdoctoral Fellow 東京都健康長寿医療センター呼吸器内科	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本呼吸学会専門医・指導医 日本気胸・嚢胞性肺疾患学会・会員 気胸・肺のう胞スタディグループ・会員 臨床研修指導医	呼吸器疾患
柳内 秀勝	内分泌代謝科診療科長 内科系統括診療部門長 臨床研究・治験センター長	防衛医科大学校 (平成 7 年卒) 医学博士 (北海道大学) 米国 National Institutes of Health (招聘博士研究員) 東京慈恵会医科大学内科学・大学院 (代謝栄養内科学) 講師 和洋女子大学客員教授 埼玉県立大学非常勤講師	日本内科学会・関東地方会幹事 日本内科学会総合内科専門医・指導医 米国内科学会上席会員 (FACP) 日本動脈硬化学会専門医・指導医・評議員 日本病態栄養学会評議員 日本臨床栄養学会評議員・編集委員 日本老年医学会認定老年病専門医・指導医 日本抗加齢医学会専門医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本未病システム学会評議員 日本機能性食品医用学会評議員 臨床研修指導医 Editor-in-Chief, Journal of Endocrinology and Metabolism	脂質異常症 糖尿病 内分泌 動脈硬化 老年医学
狩野 俊和	リウマチ・膠原病科診療科長 医療教育・臨床研究支援部門長 免疫疾患診療室医長	名古屋大学 (平成 8 年卒) 埼玉医科大学リウマチ膠原病科 新高円寺駅前クリニック 国立国際医療研究センター	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本リウマチ学会専門医 日本腎臓学会会員 日本アレルギー学会会員 臨床研修指導医	リウマチ・膠原病 内科一般

矢崎 博久	医師 ICT リーダー	琉球大学 (平成 10 年卒) 熊本大学大学院博士課程 医学博士 国立国際医療研究センター研修医 エイズ治療研究開発センター	日本内科学会総合内科専門医 日本感染症学会専門医 日本エイズ学会指導医 ICD (インフェクションコントロールドクター) 内科指導医 日本医師会認定産業医 厚生労働大臣認定労働衛生コンサルタント (保健衛生)	感染症 内科一般
酒匂 赤人	総合内科診療科長 医療教育・臨床研究 支援副部門長 内科系統括診療 副部門長 臨床研究支援室長	北海道大学 (平成 13 年卒) 東京大学公共健康医学専門職大学院 (平成 22 年卒) 公衆衛生学修士 国立国際医療研究センター研修医 国立国際医療研究センター消化器科 国境なき医師団	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医 がん治療認定医 Total Nutritional Therapy コース修了 臨床研修指導医	内科一般 消化器一般 Public Health
小林 貴	医師	愛媛大学卒 (平成 14 年卒) 東京大学大学院医学系研究科 (平成 19 年修了) 医学博士 東京大学医学部附属病院内科研修医 国立循環器病研究センター病院循環器 病専門修練医	日本循環器学会循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本不整脈心電学会不整脈専門医 日本老年医学会老年病専門医・指導医 日本人間ドック学会人間ドック認定医 ICD/CRT 研修修了 (日本不整脈心電学会) 臨床研修指導医	循環器
上村 宗弘	医師	横浜市立大学 (平成 15 年卒) 東京医科歯科大学大学院 (平成 23 年修了) 医学博士	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 臨床研修指導医	循環器
大藤 貴	医師	山口大学 (平成 17 年卒) 山口県立総合医療センター初期研修医 川崎医科大学呼吸器内科 複十字病院呼吸器内科	日本呼吸器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、 日本アレルギー学会専門医 日本化学療法学会 抗菌化学療法指導医 日本結核病学会結核・抗酸菌指導医	呼吸器疾患 呼吸器感染症
勝山 修行	医師	三重大学 (平成 17 年卒) 東京大学大学院 (平成 24 年修了) 医学博士 土浦協同病院初期臨床研修医 東京大学医学部附属病院糖尿病・代謝 内科 ドイツ German Diabetes Center, Postdoctoral Fellow	日本内科学会認定医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本病態栄養学会評議員 日本老年医学会会員 日本内分泌学会会員 日本動脈硬化学会会員 日本肥満学会会員 日本臨床栄養学会会員 ヨーロッパ糖尿病学会会員 Total Nutritional Therapy コース修了 臨床研修指導医	内科一般 糖尿病 脂質異常症
増井 良則	医師 ICT 副リーダー	高知大学 (平成 18 年卒) 当院初期臨床研修医、レジデント	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本リウマチ学会専門医 日本糖尿病学会専門医 日本感染症学会会員 日本環境感染学会会員 Total Nutritional Therapy コース修了 ICLS ディレクター ICD (インフェクションコントロールドクター) 臨床研修指導医	内科一般 リウマチ・ 膠原病 糖尿病 感染症
津田 尚法	医師	東京大学 (平成 18 年卒) 東京大学医学部附属病院 国立国際医療研究センター病院 東京都立多摩総合医療センター Tibetan Delek Hospital	日本内科学会総合内科専門医 日本感染症学会会員 日本環境感染学会会員 日本リウマチ学会会員 日本結核病学会会員 ICD (インフェクションコントロールドクター) 臨床研修指導医	内科一般 リウマチ・ 膠原病 感染症



足立 洋希	医師 NST リーダー	岐阜大学卒(平成 17 年卒) 当院初期臨床研修医、レジデント	日本内科学会認定医 日本糖尿病学会専門医 Total Nutritional Therapy コース修了	内科一般 糖尿病
箱島 真理子	フェロー	東京女子医科大学(平成 23 年卒) 当院初期臨床研修医、レジデント	日本内科学会認定医 日本糖尿病学会会員	内科一般 糖尿病
藁谷 陽子	フェロー	福島県立医科大学(平成 24 年卒) 当院初期臨床研修医、レジデント	日本内科学会認定医 日本糖尿病学会会員 Total Nutritional Therapy コース修了	内科一般
張替 忠直	レジデント	日本医科大学(平成 26 年卒) 当院初期臨床研修医	日本内科学会会員 日本糖尿病学会会員 日本感染症学会会員	内科一般
平賀 顕一	レジデント	京都大学(平成 27 年卒) 国立国際医療研究センター病院初期臨床研修医 国立国際医療研究センター病院総合診療科	日本内科学会 会員 日本リウマチ学会 会員	内科一般
飯島 岳洋	レジデント	山形大学(平成 28 年卒) 山形中央病院初期研修医	日本内科学会会員 日本糖尿病学会会員	内科一般
近藤 悠介	レジデント	東京慈恵会医科大学(平成 28 年卒) 東京慈恵会医科大学付属病院研修医	日本内科学会会員 日本糖尿病学会会員	内科一般

レジデントからのメッセージ	
<p>七澤英毅 (2年間の内科 レジデントを経て 現在精神科医師)</p>	<p>当院は歴史的に精神科医療に強く、精神科志望であった私は当院で初期研修を行いました。研修修了後そのまま精神科に進んだ同期が多いなか、多少の不安もありましたが、私は当院の統合内科で2年間後期研修を行いました。</p> <p>精神科でも器質的疾患の除外は必要となりますし、しばしば身体疾患を合併した患者さんの診療にあたる機会があります。身体科合併症の治療自体はその専門科に依頼することが多いですが、鑑別や治療に関する知識を身につけておくことは、全人的な側面をもつ精神科にとって重要なことです。というのは、精神科疾患のために基本的な医療サービスすらあまり受けられない人や、症状を放置し身体疾患がかなり悪化してから初めて受診する人も多く、そういった立場の弱い患者さんのセーフティネット的な役割は精神科医が担う必要があります。</p> <p>当院の統合内科では、精神科医療のなかでも一般的に遭遇しうる様々な疾患を経験することが可能であり、また専門医の指導を受けやすい雰囲気でもあります。幅広く内科の基礎的な考えかたを身につけることができ、精神科でよく見られる代謝系疾患や不整脈など薬剤の副作用に対する注意力が養えます。臨床研究も盛んになっており、日常診療で目にする問題を疫学的な視点からも考えることができます。過去には精神科や他科で一旦研修を積んだのち、内科を再度勉強するため当院で後期レジデントをされた先生もおられますが、お互い良い刺激となり、またのびのびと充実した研修を受けられていました。自分のスペシャリティに内科的視点が加わることは、他科から再度内科研修を受けるメリットのひとつだと思います。</p> <p>常勤の専門医がいない関係で経験数が少ない疾患(血液、腎臓など)があったり、特定の専門科の診療だけ行いたい先生には物足りない点もあるかもしれませんが、内科全般の疾患を経験しつつ専門科を決めていきたい人、既に専門科があるけれど広く内科疾患の経験を積みたい人は、是非当院の統合内科の後期研修を検討してみてください。きっとあなたの医師としてのキャリアにプラスとなるはずです。</p>

<p>川口明子 (内科レジデント・ フェローを経て 現在伊藤病院医師)</p>	<p>皆さんこんにちは。川口明子と申します。</p> <p>私は市川で生まれ、地元で働きたいという気持ちから当院で初期研修を行い、内科の雰囲気の良さに魅かれ、引き続き後期研修、フェローと勤務させて頂きました。</p> <p>内科に入った当初は、分からない事や失敗だらけで落ち込む日も多々ありました。ですが、周りの先生方は優しく質問しやすく親切な先生方ばかりでしたので、ご迷惑をおかけしながらも何とかそれなりに仕上げさせて頂きました。たくさんのお患者さんとの触れ合いの中でとりわけ内分泌疾患に興味を持ち、現在は甲状腺専門病院で研修をしております。また、週に1回は当院で糖尿病外来をさせて頂いており、引き続きご指導頂いている最中です。当院の一番の良さは、やはり優秀で暖かみのある先生方ばかりでストレスを感じる事なく働ける場所かなと思います。休みもしっかり取れますし、メリハリのある有意義な研修にする事が出来ると思います。是非一度見学にいらして下さい、お待ちしております。</p>
<p>藁谷陽子 (フェロー 2年目)</p>	<p>当院での初期臨床研修を修了し、内科レジデントとして勤務させて頂いております。</p> <p>当科は総合内科として成り立っており、幅広い症例を上級医と共に経験することができます。元来地域医療に興味があり、様々な症例を経験し知識を身につけることで、多角的な視点からアプローチできる医師になりたいという思いから、当科での後期研修を選択いたしました。同様の目的を持った元気の良き方を、お待ちしております。</p>
<p>張替忠直 (レジデント 3年目)</p>	<p>こんにちは！私は当院の雰囲気の良さから初期研修を当院で行い、その後も後期研修を引き続き行わせていただいております。</p> <p>当院内科の特徴として、総合内科ということがあります。循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、膠原病内科、感染症内科の専門医が総合内科内にいるため、自分でわからない点に関しては専門医の意見を聞きやすい特徴があります。また、毎日朝にカンファがあるため様々な意見を聞くことができ、日々勉強させて頂いております。疾患も肺炎や尿路感染症の他、膠原病や糖尿病など様々な疾患を受け持つことができます。わたくしも糖尿病専門医を目指しながら、様々な症例を受け持ち上級医から複数の視点から指摘を受けております。</p> <p>また、当院では後期研修1年目から外来を開始します。そのため退院後も外来主治医になることもでき、患者さんと信頼関係を築くことができます。当初のうちは <b>common disease</b> であっても不安がありましたが、上級医に確認を行いながら進めることができたため安心でした。雰囲気がいいため上の先生たちにも気軽に質問をすることができるという点も当院の良い特徴だと思います。専門外来や甲状腺エコーも行わせていただき、慣れるまで大変だとは思いますが、上の先生方がやりたい環境に整えてくれるため楽しく充実した生活を送っています。</p> <p>当院は当直医制で週末など自分の時間を持つことも魅力の一つと考えています。院内に保育所もあったり、産休・育休取得をとりやすい環境というのは女性医師にとっても魅力なのではないでしょうか。実際に産休・育休取得後に専門医試験を控えた女医もいます。</p> <p>少しでも興味を持っていただいた方はぜひ当院に見学にお越しください。実際に来ていただけると当院の雰囲気や立地、強みや弱みなどいろいろ実感していただけたと思います。連絡お待ちしております！</p>

国府台病院は、市川という文教都市に位置し、緑豊かな自然環境にめぐまれ、東京ドーム7.5個分という広大な敷地を有しております。また、東京まで20分、新宿まで37分、千葉まで21分と都心および千葉へのアクセスも良好です。



野戦病院のような忙しい病院ではなく、また夜間や土日に関しては主治医制ではなく当直医制であり、勉強をしたり家族と過ごしたりする時間をある程度持って研修することができます。院内には保育所もあり、当科にも利用しながら勤務しているレジデントもいますし、当直なども個別に相談して対応しています。

看護部サイト/保育施設：<http://www.ncgmkohnodai.go.jp/kohnodai/kango/environment.html#hoiku>

新病棟、新教育研修棟に続き、新外来棟も完成しました。スタッフ一同、新しくなった職場環境で、皆さんと一緒に楽しく仕事をできることを期待しております。

教育責任者：酒匂赤人，狩野俊和，柳内 秀勝